

下水道事業の問題点探る

岐阜市でシンポ 市民ら1000人参加

下水道事業の抱える問題点について考えるシンポジウムが二十日、岐阜市長良の岐阜グランドホテルで開かれ、県内外から集まった行政担当者や市民ら約千人が、生活排水の処理費用や浄化



下水道事業について考えたシンポジウム。岐阜市長良、岐阜グランドホテル

下水道事業の抱える問題点について考えるシンポジウムが二十日、岐阜市長良の岐阜グランドホテルで開かれ、県内外から集まった行政担当者や市民ら約千人が、生活排水の処理費用や浄化

施設のあり方など考えた。シンポジウムは全国環境整備事業協同組合連合会主催、県浄化槽連合会の共催。西連合会会長の玉川福和さんがあいさつし、「下水処理に一般財源

が投入され、財政を圧迫し続けている。適切な下水道料金を設定し、積極的な情報公開をすべき」と主張した。

続いて慶應義塾大学経済学部教授の金子勝さんが講演し、小泉政権の改革や財政運営を批判。また、国土交通省都市・地方整備局の早川雅章さんの講演では、現在の下水道経営の厳しい状況と、経営の健全化に向けた取り組みが紹介された。

講演後の質疑応答では参加者から「一般財源からの投入は利用しない市民にとって不公平ではないのか」「自治体の公表する下水道収支がわかりにくい」などの意見が出されていた。

- ・このページ掲載の新聞記事は、岐阜新聞(朝刊)から転載しています。
- ・この新聞記事掲載は岐阜新聞から転載を許可されたものです。
- ・このページ記載の新聞記事の著作権は、岐阜新聞にあり二次使用は許可されておりません。